

業界短信

(21年6月1日～6月30日)

アカシ、HPを開設（産業新聞、6/1）

アカシ㈱（愛知県高浜市、加藤純也社長）はこのほど、インターネットホームページを開設した。先に制作した企業パンフレットと合わせ、企業イメージや認知度の向上を図ることが狙い。HPは企業理念、事業案内、主要設備などを写真や図を多用し分かりやすく掲載。事業案内では、レーザ切断によるケガキ線まで施した加工を図面入りで解説している。同社は、レーザやNCガス、バンドソーなどの設備で、重仮設リース向け鋼材や天井走行クレーン部材向けの切板を手掛ける溶断業者。月間加工能力は500～600ト。

中部鋼鉄、切板能力1.5倍に（産業新聞、6/12）

中部鋼鉄㈱（名古屋市中川区、成田健一郎社長）は、今年度、耐震補強用切板の加工能力を前年度の1.5倍に引き上げる。耐震補強工事が集中する7～8月の2ヶ月間、加工工場の勤務体制を3直にシフトアップするとともに、プラズマも増設、人員、設備両面の瞬発力を高めることで、短期集中の切板需要に対応する計画だ。プラズマは6月8日から本稼働を開始しており、投資額は付帯工事を含めて1億円弱。同社では、今年度の耐震補強用切板の需要を、小中学校の校舎や、病院、消防署などの公共施設を中心に昨年度比で、平均3～4割、集中時期には6～7割の増加と見込んでいる。加工体制は、7～8月の43日間で実施する圧延基盤整備事業に伴い、製鋼、圧延からの要員の応援を受け、15時間2直シフトの勤務体制を、7～8月間の2ヶ月間は24時間3直体制にシフトアップする。

三原商事東濃金属、関東のレーザ加工強化（鉄鋼新聞、6/17）

㈱三原商事東濃金属（岐阜県可児市、三原吉城社長）は、関東工場（群馬県太田市）でレーザによる切板加工を開始するため、年内をめどに工場棟を増設し、本社工場にあるレーザなどを移転することを決めた。これにより関東工場は従来比3割増の月間2千トン程度の加工量に引き上げる。また本社工場はレーザの新設を検討する。同社は、本社・可児工場と関東工場では厚板溶断、平鋼切断、穴あけ、ばり取り、ショット、開先の各加工を手掛け、スプライス生産を主力に月産約3000ト。

徳和鋼材、益子の設備改良（産業新聞、6／24）

徳和鋼材㈱（栃木県真岡市、田爪崇洋社長）は、このほど約 800 万円を投じ、益子工場の既設設備を改良した。3月にレーザの「ピンポン機能」を付加、4月にガス1基をNC化した。現在レーザの月間加工能力は約100ト。

富士鉄鋼センター、厚板溶断にアクアガス（鉄鋼新聞、6／29）

㈱富士鉄鋼センター（千葉県君津市、高木建社長）は、切板製品の品質安定と、生産性向上を目的に、ガス溶断にアクアガス（酸水素ガス）を採用した。専用のアクアガス発生装置を設置し、まずはNC付きフレームプレーナーとポータブルプレーナーを対象にガスを供給。最大効果を発揮するため、目下は条件設定やオペレータ研修を行っており、終了後、本格的な運用に着手する運び。アクアガスは、水の電気分解で得られた水素と酸素にLPガスなどを添加した溶断用ガス。同ガスを燃焼用に採用するケースが厚板溶断業界でも見られ、関東地区では神鋼鋼板加工、岩上鋼材、日新シャーリングが活用している。

京葉ブランキング工業、厚板一次加工を効率化（鉄鋼新聞、6／29）

京葉ブランキング工業㈱（千葉県市原市、佐藤宣之社長）は、今週にもプラズマ加工を開始する。同社は、建機やトラック、容器、土木関連製品など幅広い需要分野を手掛けるが、一次加工工程は板厚や受注内容に応じ、ガス、レーザ、連続ブランキングを使用する。プラズマ導入は今回が初めてで、9月末に導入し、10月からの営業運転開始を目指す。

高砂金属工業、プラズマ切断機導入（鉄鋼新聞、6／29）

高砂金属工業㈱（大阪府高石市、宮崎吉二社長）は、7月中旬をめどに、本社工場にプラズマ1基を導入する。同社は若返りを推進しているが、その影響による技術力低下を防ぐとともに、納期対応強化も狙う。新設備は加工板厚最大36ミリで、投資額は付帯設備など含めて計8千万円。